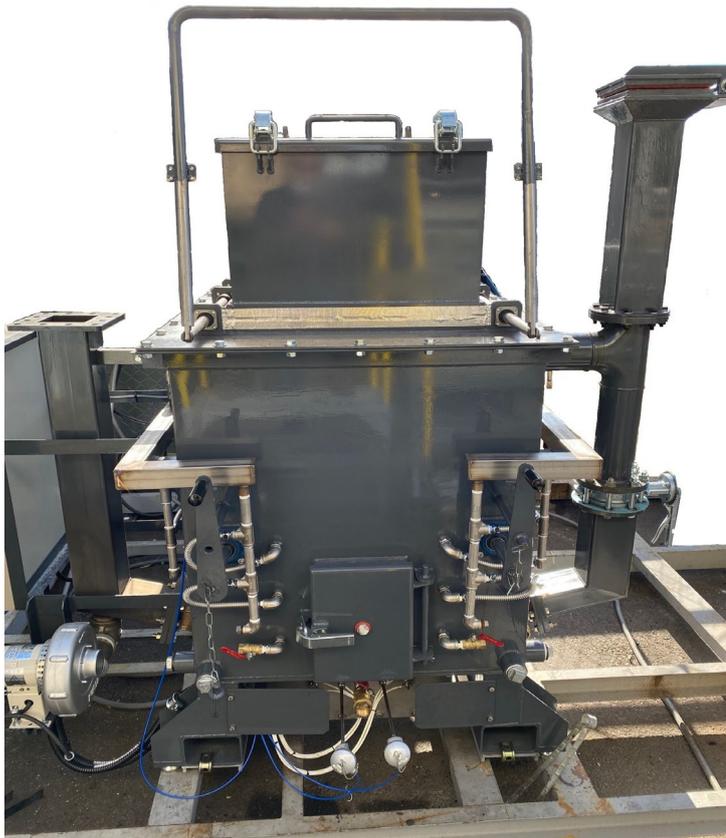


Super Waste Processor SWP-80

環境に優しい有機廃棄物 磁力熱分解処理小型装置

プラスチックごみ、石油化学製品、発泡スチロール、ゴム、固化した塗料、パレット、梱包材、段ボール、衣料品等を不完全燃焼で燻焼処理し、約300分の1のわずかな灰にしてしまう、画期的な磁力熱有機廃棄物分解処理装置。屋根と電気さえ有ればどこでも設置可能。熱効率がパワーアップし、煙、CO2、ダイオキシン、臭い、騒音等無し。連続投入が出来、効率良い廃棄で、電気代月額約8万円。産廃処理コスト大幅削減が可能。ダイオキシン類対策特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、消防法に対応し、行政届出は不要。



ごみは上から投入。
下からの煙を防ぐ2重扉



内部は熱と煙で不完全燃焼
燻焼処理。



灰は底部に落ちて貯まる



灰は完全に燃え尽きたパウダー状



発泡スチロール

段ボール

プリント基板

リボン/フィルム



固化した塗料

ブルーシート



軍手、ウェス

売れ残った服



Super Waste Processor SWP-80の大きな特徴 1

1. 屋根と電気さえ有ればどこでも使用が可能
2. 石油やガス等燃料を一切使わず、電気だけで分解処理
3. 電気代月額約8万円のランニングコストで、産廃費用を大幅削減
4. 煙、CO2、ダイオキシン等有毒ガス、臭いを出さない
※排ガス測定検査では、毎回大幅に基準値を下回る数値を実現
5. 高い熱効率
6. 灰は投入時容量の約300分の1に減容
7. わずかな灰しか出ないため排出は月に1回で十分。後処理が簡単
※灰は「焼却灰」として産廃で処理可能です。
8. 廃棄物を連続投入出来るため、効率の良いごみ処理が可能
9. 装置の構造が小型でシンプルなため、故障が無く、メンテナンスも楽
10. 水分を多く含むおむつ等ごみは紙等と混ぜると早く効率的に処理
11. タールは燃え尽きて微量の固化状になり、再投入するとほぼ消滅
12. 火床面積が小さく、行政手続きが不要
13. 製造加工現場を持っているため、カスタマイズが出来、早く、安い

処理可能なもの

プラスチック製品、石油化学製品、発泡スチロール、ゴム、ブルーシート、固化した塗料、段ボール、紙、材木、パレット、布、軍手、ウェス、衣料品、タイヤ、書類、水分の少ない有機物

処理不可のもの

鉄、金属、缶、乾電池、アルミ包装袋、ガラス、ビン、石、貝、コンクリート、レンガ、塩ビ、水分の多いもの、液化する化学製品、粉状のプラスチックや紙類、汚泥、無機物

投入可能サイズ

投入口幅：530X530mm に入る大きさの廃棄物

水分の多い廃棄物

水分の多いおむつ等は大量の木チップや段ボール等と混ぜ投入すると処理が可能

Super Waste Processor SWP-80の大きな特徴 2

物流梱包材



工場が発生する軍手やウェス



売れ余った衣料品



災害後のブルーシート



焼却炉と何が違うの？

1. 焼却炉はガスや灯油の炎でゴミを燃やすが、SWP-80は炎が無く、火鉢と同様に熱と煙で蒸し焼き分解
2. 焼却炉はガスや灯油等の燃料費が掛かり、補充の手間も掛かるが、SWPは電気だけのため、省コストで手間無し
3. 焼却炉はバッチ方式のため処理後は毎回灰をかき出す必要が有るが、SWPは1か月に1~2度で十分
4. 焼却炉の内部に有るレンガが無いので、レンガ交換も不要
5. SWPは不完全燃焼の燻焼方式を用い、二酸化炭素やダイオキシンを発生させない独自技術で処理



一般的な熱分解装置とSWPは何が違うの？

1. 他社熱分解装置は、有害排気ガスの問題解決に至っていないため、一酸化炭素、二酸化炭素、さらにはメタンガスも発生し、爆発事故が発生一方SWPは独自開発の排気循環メカニズムで、有害ガス排出量が極めて少なく(下表)、排気測定試験では他社を大幅に下回る値を常に記録
2. コンパクトでシンプル。電気だけの低ランニングコスト。
3. 白煙無し、タール液は燃え尽きて微量なため、スクラパー洗浄装置は不要

SWPダイオキシン測定結果

項目	単位	基準値	測定結果
ダイオキシン類毒性等量	Ng-TEQ/m3	5	0.0058
一酸化炭素濃度換算値 O2 12%換算値酸素	ppm	50	5

A. ダイオキシン類対策特別措置法 (2000年1月15日施行)

火床面積0.5㎡以上(※1)、焼却能力50kg/h以上(※2)の廃棄物焼却炉が対象で以下の義務が有る。
 ※1 火床面積とは、一時燃焼室の床面積の事。※2 焼却能力とは、1時間あたり何kg焼却できるかを表す。

1. 届出の義務: 設置60日前までに、都道府県知事に届出をする事。
2. ダイオキシン類の測定: 年1回以上排ガス・ばい塵・焼却灰等(※3)を測定し、報告する事。
 ※排ガスとは煙突から排出される前のガスで、ばい塵は集塵装置から排出される灰。焼却灰は、燃焼室から排出される灰。
3. ダイオキシン類の排出基準: 火床面積0.5㎡以上2㎡未満または、焼却能力50kg/h以上200kg/h未満の廃棄物焼却炉の場合は排ガス(基準値: 5ng-TEQ/m3N)ばい塵、焼却灰(基準値: 3ng-TEQ/m3N)

※SWP-80は火床面積0.49㎡未満、焼却能力49kg/h未満であることから、上記3つには該当しない焼却炉です。

B. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (平成14年12月1日改正施行)

規模にかかわらず、すべての廃棄物焼却炉に適用。(焼却設備の構造基準)

1. 空気取入口及び煙突の先端以外に焼却設備内と外気が接する事無く、燃焼室において発生する燃焼ガスの温度が摂氏800度以上の状態で、廃棄物を焼却できるものであること。
2. 燃焼に必要な量の空気の通風が行われるものである事。
3. 外気と遮断された状態で、定量ずつ廃棄物を燃焼室に投入することができるものである事。
4. 燃焼室中の燃焼ガスの温度を測定するための装置が設けられていること。
5. 燃焼ガスの温度を保つために必要な助燃装置が設けられていること。

※SWP-80は上記5つの構造基準に適合した焼却炉です。

C. 消防法: 据付面積2㎡以上の炉が対象です。

1. 届出の義務: 設置7日前までに消防長に届出をすること。
※上記の通りSWP-80は据付面積が約1.92㎡であることから、届出の対象外です。
2. 設置基準: SWP-80は摂氏800度以上で燃焼する開放炉以外であるため保有距離は以下の通りに設置してください。
 ・上方: 4m以上、側方: 2m以上、前方: 2m以上、後方: 2m以上

念のために行政届にご相談される事をお勧めします。

オプション

耐熱ホースフィルター付
強力真空クリーナー

面倒な灰の掻き出し手作業はこれで解決



SWPの最新情報
はこちらのQRから



Wi-Fi不要の電気遠隔監視
異常通知システム

電気の異常をスマホ等に通知



製品名	SWP-80	SWP-100	SWP-120
装置寸法mm	1,600 X 1,200 X 高2,000	2,500 X 2,100 X 高2,400	2,400 X 2,100 X 高2,600
重量	約800Kgs	約2,300Kgs	約2,600Kgs
炉内容積	0.36m3	0.8m3	1.2m3
1日の処理能力 ※対象物により異なる	0.5~1.0m3 (重量0.15~0.3ton)	1.0~3.0m3 (重量0.3~0.9ton)	2.0~5.0m3 (重量0.6~1.5ton)
火床面積	0.4m2	0.4m2	0.38m2
消費電力/200V	8~11kWh	10~21kWh	10~21kWh
カスタマイズ	廃棄物自動投入機との連動、投入口の形状変更、煙突高さ等 (別途費用が掛かります)		
その他機能	炉内爆圧回避口、廃棄物高さ確認機能、タール消滅機能、		

製造メーカー: 株式会社 大丸製作所

正規販売代理店 **カッティングエッジ株式会社**

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-9-6

TEL / FAX : 03-6822-5613

<https://cuttingedge-tech.jp/>

sales@ctg-edge.jp



お問い合わせ先はこちら